

定期総会あいさつ

東北地方建設局

技術調整管理官 小野 菊 藏

平成4年度東北地質調査業協会定期総会が盛会裡にかつ滞りなく執り行われたことに対し、心からお慶び申し上げます。

会員の皆様方におかれましては、平素より建設行政の推進に御協力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

お蔭さまで平成3年度事業も極めて順調に執行できました。改めて御礼申し上げます。

今年度の事業としましては、事業費2,518億円（対前年1.01倍）により、高規格道路、水資源開発、治水事業等、東北の国土基盤となる社会資本の整備を進めてまいる所存であります。新規事業と致しましては、鳴瀬川総合開発の実施計画調査、一般国道283号仙人峠道路、高規格幹線道路の湯沢横手道路事業延伸（雄勝町～湯沢市）などに着手するほか、新組織として鳴瀬川総合開発調査事務所と、東北幹線道路調査事務所の2つの事務所を宮城県内に設置致しました。今年度は第10次道路整備5ヶ年計画の最終年度でもあり、国道121号大峠道路の峠部分の18.6kmの供用など道路の大巾な供用を予定しております。

さて、今年度の事業執行方針につきましては、上半期契約目標率を建設省全体として77%以上としているところでありますが、東北地建と致しましては、積雪寒冷地であることを考慮し、80%を上回る目標にしたいと考えているところであります。円滑な事業執行と下半期の事業費確保に向けてよろしく御支援・御協力をお願い致します。

ところで、皆様から特に要望の強い積算等の改善についてであります。平成3年度には、地質調査業務を調査業務部分と、コンサルタント業務の部分とを明確に分離計上することにいたしましたし、また、今年度は新規に現場透水試験、間隙水圧測定、運搬費、準備費、仮設費、安全費、施工管理費等を制定し、明確化を図るとともに一層の適正化に向けて大巾な改善をしたいところであります。

また、工事、調査等に関する事故についてであります。昨年度の東北地建は死亡事故ゼロ、事故件数でも14件とこれまでの最低を下回る成果をあげることができました。これもひとえに皆様の御努力の賜と心から御礼申し上げます。

しかしながら、全国的には建設工事における重大事故が相次いで発生するなど、依然として事故率は高い状況にあります。建設省としてはこのような状況下において、さらに安

全施工の一層の充実を図るため、本年1月に「建設省の工事安全対策」を発表したところ
であります。今年度も安全施工の一層の推進をお願いする次第であります。

最後をお願いとお礼についてであります。

昨年度皆様に御協力いただきました第8次治水事業5ヶ年計画が17兆5千億円・対前
5ヶ年1.4倍の規模で承認されました。この場をかりてお礼申し上げます。

また、今年度は第11次道路整備5ヶ年計画を策定することとしておりますので、御支援
をお願い致します。さらに、今年の9月28日～30日にかけて土木学会全国大会が仙台市で
開催されます。皆様には様々な御協力をいただいております。感謝申し上げます。

最後になりましたが、良質な社会資本の整備を円滑に推進するため、地質調査業の果す
役割は極めて大きなものがあります。今後も、会員各位が一層の技術の研鑽を積まれ、社
会的役割を果されるとともに、本協会の益々の発展を祈念致しまして、挨拶と致します。

平成4年5月22日

